

「コロナ禍のクルドの子ども
たちの今そして未来」

織田 朝日

私がこの問題を始めた2004年、当時クルド人は200人くらいと言われていた。（現在は2000人と言われている。）この当初は、子どもはまだそんなにはいなかった。

主に川口市にすむクルド人は約95%が親戚と言われているので、親戚、兄弟を頼り来日し、次第に子どもたちが増えて行った。幼いころに日本に連れてこられた子もいれば、日本生まれの子どもも増えて行った。

クルド人のほとんどは難民申請者なので生活は大変ではあるが、コミュニティがあるので助け合って暮らしている。



学費)

日本生まれの子はともかく、来日してすぐ学校に入れられるケースもある。言葉がわからないままの途中入学で苦労はするが、子どもなので半年もあればだいたい日本語を習得する。

問題は学費。修学旅行の積立金、ランドセル、体操服など、支払いは困難。中学になると更に高くなる。大人も子どもの学費は後回しになってしまう。

中学半ばで学校をやめてしまう子どもも多い。また、大学に行っても卒業できたとしてもビザがなければ就労ができない。ビザのない子どもには日本で生きる限り、現状では未来はない。

裁判)

現在、5組のクルド家族が裁判を始めている。現状はコロナのために裁判は延期になっているが、口頭弁論もなく結審になる家族もあるので見通しは厳しい。子どもたちは裁判のために学校を休んでくる。子どもが裁判をしないとビザをとる可能性が低いことは非常に問題。

イジメ)

見た目が日本人と違うことから、いじめを受けることが多い。「くさい」「国に帰れ」などの言葉は当たり前で、先生も親身になってくれないという声が多い。2019年にクルド少女がクラスの男子に暴行を受けたことがニュースで話題になっている。その後も学校、教育委員会と話し合いを重ねるが、大きな改善は見られなかった。今後も大きな課題と言える。

※川口市の小学校、学校ぐるみで“クルド人少女のイジメ事件”隠し
<https://hbol.jp/190019>

収容)

2017年、6歳で日本へ来たクルド少女が20歳を過ぎて収容された。子どもが大人になったら収容されるという出来事によって、あまり世の中に知られていない入管の現状が、メディアにより大きく露出していくようになった。

※日本で育ったのに、大人になると突然理由なき「収容」。

「人間扱いして」と訴えるクルド人女性

<https://hbol.jp/218587>

収容)

また同年、父親が収容され、いつも学校を休んで入管へ父親の面会に来たり、外で拡声器をもって「お父さんを返せー」と叫ぶ小学2年生の女の子がいた。彼女は父親救出まで、面会、デモ、記者会見、法務省交渉のために学校に行かず、母親の通訳となりたたかい続けた。



クルドっ子演劇)

2011年発足。クルドの少女のいじめをきっかけに、みんなで楽しいことをしようと織田が主宰した。いじめの実体験をもとに台本をつくり、公開した。その後も社会問題をテーマとした実話に基づいた台本をみんなで作り続け9年たった今も、世代交代しながら演劇は続いている。



給付金)

生活の苦しい立場の、ビザのない家族は住民票がないため給付金をもらうことができない。これに人間扱いされていないと差別を受けている気持ちになってしまう人も多い。
新型コロナウイルスの影響で、苦しいのは日本人も外国人も同じなので平等に接してもらいたい。

自分たちにできること)

知る、学ぶ、そして伝えてほしい。
子どもを守れるのは我々、大人しかいないので、
子どもたちの未来が開けるように、
誰にでもチャンスがあるように
大人が頑張っていてほしい。

日本が認めない
99%の人たちの
SOS

難民

とよりのこ

織田朝日

70th
ANNIVERSARY
旬報社

どうしよう、
私、きっと捕まる

難民認定率
1%以下!

日本育ちなのに大人になったら
収容される子どもたち